

第六次大野市総合計画の策定状況（令和元年度12月現在）

資料1

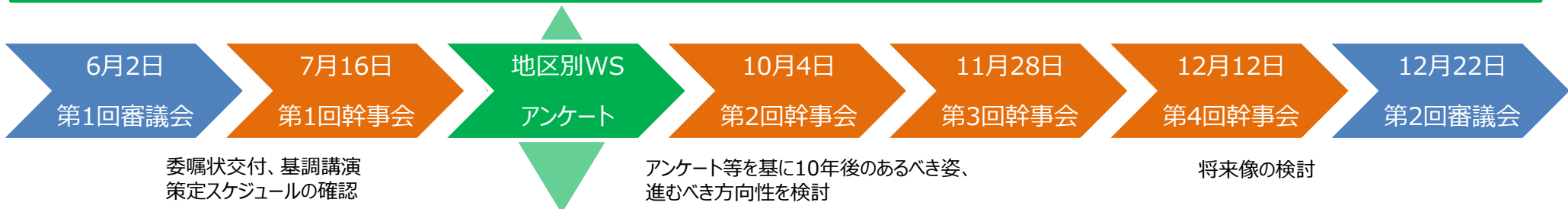
地区別ワークショップ（8～9月、各公民館 9地区8会場）

参加人数：193人（男性141人、女性52人）

内容：第五次大野市総合計画の施策ごとの満足度調査と意見交換

【自由意見・抜粋】

- ・赤ちゃんから高齢者の方ひとりひとりが主役のまちづくりを求める。
- ・若い方が働きたいと思える職、環境を整えることができるか。地元に残る人、又は戻って来られる方が増えるような魅力の創出が必要。
- ・自然が良くないところには産業もこない。何を最優先するかを第六次に反映させてもらいたい。自然を第一に考えないと次世代につなぐ持続可能な社会の形成はできないと思う。
- ・小中学校を早く統合してほしい。先生も支援しやすい体制となるのでは。人数が少なすぎて不安。
- ・結の心を宿す子を育てるなら学校をなくさず、地域とともに育てることが必要。
- ・若い方が農業という仕事をやってみたいと思ってもらえるよう、経済的な保証もなくてはならないし、生活の基盤となる仕事としての農業が成立する状態が必要。
- ・住居や納屋などが空き家になって自然倒壊したり、放置されたりしたものがそのまま鳥獣の住処になっており、生活の不安になっている。これらに対する取り組みが不十分だと感じている。
- ・公民館活動の内容の充実で地域は活かされる。公民館が拠点となって地域づくり、人づくりに努めてほしい。
- ・行財政が大問題で、多くの市民は、どうやって税収を上げ、執行していくかということに関心がある。



アンケート（7月～8月）

回答者：市民327人、中高生531人、ゆかりのある人146人、移住者11人

内容：各施策の満足度と必要性、まちの将来についての意見等

【自由意見・抜粋】

- ・JR越美北線の本数が少なく、快速もないため、鉄道での通勤がとても不便。
- ・企業誘致が必要。働く場所が少なく、賃金が安い。
- ・大学卒業後、就職が出来る大野にしてほしい。若者が多く居る未来へつなぐ町にしていけるように取り組んでほしい。
- ・今から10年後には農業ができなくなり耕作放棄地が増えてくると思われる。担い手支援も必要だし放棄地を花畑にするなど、景観を維持する取り組みも必要だと思う。
- ・大野市はせっかく古い町並も残っているし、小京都とも呼ばれているので、もっと売り出して、外国人の観光客の方を呼ぶとよいと思う。
- ・大野に住んでいる若者が、結婚して子供を安心して産める社会を作っていってほしい。
- ・健康の町としてつくり上げるといいと思う。

